

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3890200334
法人名	医療法人やすらぎ会
事業所名	グループホームつどい
所在地	愛媛県今治市南大門町2丁目2番地2
自己評価作成日	平成 26 年 12 月 30 日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成 27 年 2 月 20 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>・おひとりおひとりの今までの歩みをたいせつにし、個々のご利用者に合った支援を心がけています。</p> <p>・家庭的な雰囲気の中で自分らしく、より豊かに、ゆったりと暮らしていただけるように、優しく寄り添った介護に努めています。</p> <p>・運営母体の病院と連携して入居者の万全な健康管理に努め、重度化した場合はご利用者・ご家族のご意向に従い、看取り介護を行っています。</p> <p>・地域の方々とは、地方祭にはお神輿や子供たち、地域の人たちが来てくれたり、ボランティアによる民舞鑑賞会、クリスマスキャロル等、また、さつまいも苗植えに協力していただいたり、楽しく交流しています。</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>市街地にある事業所は、市役所や消防署、JR今治駅、幼稚園、小学校など利便性に優れた立地である。平成26年4月に開設した事業所には小規模多機能型居宅介護を併設しており、2階と3階部分を事業所として使用している。母体病院は事業所から近く、毎日の往診や急変時の迅速な対応など利用者や家族には安心感があり、認知機能が低下していても受け入れている。できることはなるべく利用者本人にしてもらうよう声かけを行い、自立して日常生活を送るように職員同士で話し合っている。事業所では看取りにも取り組んでおり、「とろとろに優しく」をスローガンに掲げて利用者に優しく接しながら、日常生活で苦痛を与えずやすらかに最後まで看取れる対応をしている。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 ○ 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- I. 理念に基づく運営
- II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。
- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。
- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホームつどい

(ユニット名) 2階

記入者(管理者)
氏名 村上 東洋子

評価完了日 26年12月30日

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I. 理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	<p>(自己評価) 『一人ひとりの今までの歩みを大切にし、一人ひとりの「今」「この時」に寄り添います。』の理念を玄関、居間に掲示。スタッフ全員が朝礼で唱和し、理念を共有している。利用者一人ひとりが地域にとけ込み、その人らしく生活してゆけるよう支援している。</p> <p>(外部評価) 開設準備室を立ちあげた段階で、他の事業所の理念を参考にしながら、「自分たちはどのようなグループホームにしたいか」を職員間で話し合い、理念を作成している。平成26年4月開設後は、玄関やリビング、スタッフルームに理念を掲げ、毎朝唱和している。</p>	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	<p>(自己評価) 地方祭ではお神輿や子供たち、地域の人たちが来て下さったり、弘法大師降誕会に利用者とスタッフが列席して幼稚園児と交流。近隣の方がさつまいも苗を持参、利用者と一緒に畝を作り芋植えをしたり、メダカを持ってきてくれ、飼い方を教えてくれたり、その後の様子を見に来てくれたりしている。近隣の農家のお米を食し、始めて新米を食べる時は、農家の方も来て、米作りの話を聞きながら、一緒に食事をし、お米を作ってくれた人の顔が見えるなど、地域の住民と楽しく交流している。</p> <p>(外部評価) 小学校の運動会などの地域行事に参加したり、近隣にある幼稚園等と交流をしたりするなど、地域との繋がりを広めている。地域の祭りでは子供神輿が立ち寄り、利用者に喜ばれている。様々なボランティアの訪問があり、敷地内に家庭菜園を作ってもらい野菜作りをしたり、庭木の剪定をしたり、メダカの飼い方などを教えてもらっている。民舞のボランティアや学生の実習も受け入れ、利用者で交流している。また、災害発生時には一時避難所として地域住民を受け入れできる体制を整えている。</p>	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	<p>(自己評価) 「認知症在宅介護者のつどい」の施設見学・研修の受け入れを行い、認知症に対する知識や理解を深め、介護方法の習得や、介護者・入居者・スタッフとの交流や、質疑応答、意見交換など行っている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	<p>(自己評価) 運営推進会議は2ヶ月に1回、利用者・家族・民生委員・地区住民の代表者・市担当者の参加を得て開催している。利用状況・活動状況の報告を行い、意見交換では毎回、率直な意見が出席者からあり、熱く盛り上がり、防災問題、今後の活動、認知症の方に対する対応など、貴重なご意見をいただき、スタッフ全員に会議の報告と周知を徹底し、サービス向上に活かしている。</p> <p>(外部評価) 運営推進会議は利用者や家族、民生委員、地区の住民、市担当者、法人理事などの参加を得て開催している。家族も会議には積極的に参加してくれている。会議では事業所の活動報告を行い、意見や情報などを気軽に話してもらえよう茶話会的に実施している。参加者から「防災について事業計画に入れた方がよい」など意見が出され運営に反映している。</p>	会議には決まった職員が毎回参加しており、他の職員には翌朝のミーティングで報告をしているが、可能な範囲で職員が順番に参加することを望みたい。多くの職員が地域住民や家族等との意見交換等を直接していくことで、理解や交流を一層深められるなど、さらなるサービス向上に繋がることを期待したい。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	<p>(自己評価) 市担当者の運営推進会参加を得、事業所の方針や現場の実情を伝えたり、市職員から課題解決のための情報を示唆していただいている。介護保険関係で理解困難な場合は市の窓口を訪問し、話し合いをするなど、普段から連絡・相談がしやすい関係を築いている。</p> <p>(外部評価) 事業所から市役所は近く、管理者は開設の準備段階から市担当窓口に出向き相談しており、介護保険制度の内容の確認や質問など気軽に相談できる関係づくりをしている。市担当者は運営推進会議にも参加し、情報やアドバイスをもらっている。</p>	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	<p>(自己評価) 職員一同が「身体拘束は行わない」と共通認識を持ち、定期的ユニット会議で学習し、課題があれば話し合いをして、身体拘束をしないケアに努めている。三階建ての建物内は利用者がエレベーターを使って自由に移動している。施設が市街の中心地に有り交通が頻繁な交差点の角地のため、一步屋外に出ると危険がある。徘徊の利用者も入居しているので安全を優先し、やむを得ず施錠しているが、利用者が希望すれば必ず職員同行で外出している。</p> <p>(外部評価) 身体拘束に関することは定期的にユニット会議で話し合い、身体拘束をしないケアに努めている。車いすの利用者が立ち上がろうとすることもありますが、職員が見守りで対応している。事業所のある建物は大通りに面し交通量も多く危険なため、家族にリスクを説明し同意を得て、階段室と玄関は施錠している。外出しようとする利用者には職員が同行したり、希望者には敷地内の畑に出て野菜作りの世話をしたりできるよう支援している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 定期的ユニット会議で「虐待防止」について学習している。特に介護現場では身体的虐待だけでなく、叱る・無視・高圧的態度など心理的虐待の防止に重点を置いて、職員の自覚を促し、「とろとろに優しく」を事業所のスローガンとしている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 管理者・リーダーは介護支援専門員の研修等に参加し、権利擁護について学んでいる。現在のところ、制度を利用する対象者はいないが、今後、職員が研修等に参加の機会を設け、権利擁護や成年後見制度を学び、理解し、必要な時は利用者、ご家族を支援できるようにする。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 利用者やご家族に対し、契約内容の詳細を説明し、不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い、理解・納得を得られた上で契約を行っている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 日々の生活の中で、利用者からの要望が、毎朝のミーティングで管理者及び職員に報告され直ちに話し合いをし、ケアに反映している。ご家族が来所時はホールと一緒に座り、一緒にお茶を飲み、普段の生活を見ていただき、ご意見ご要望等を伺い、ご家族のお気持ちを職員に周知させ、運営に活かしている。遠方のご家族には、電話連絡にて利用者の様子を伝え、つどい便りを全家族に送付している。 (外部評価) 家族から個人的な利用者の好みや希望は出されるが、運営に関しての意見や要望は今のところ出ていない。利用者から日々の生活の中で希望が出されることがあり、職員間で話し合い対応している。遠方に住んでいる家族には電話で連絡を取り、2か月に1回「つどいだより」を送付している。意見箱を設置しているが、今までに意見は出されていない。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 毎月のユニット会議で、職員ひとりひとりが意見を述べる機会がある。管理者と職員は普段からケアの方向性がぶれないように話し合い、職員が代表者や管理者に意見や要望を伝えやすい環境とし、職員の声を運営に活かしてゆく様に努めている。 (外部評価) 開設当初は、2階と3階合同で会議を実施していたが、話し合うことが多く時間もかかるため、現在は毎月別々のユニット会議で話し合いをしている。ユニット毎の会議ではあるが、会議記録は職員全員に回覧し共有している。会議では職員から勤務体制などの意見が出され、管理者は全ての要望に対して対応できないこともあるが、きちんと説明し反映できるよう努力している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 個々の勤務状態を把握し、面談を行い、話しやすい状況を作っている。実績に応じて、研修参加の機会を設け、キャリアアップ、意欲の向上に努めている。希望休、生活状況に合わせた勤務シフトを取り入れ、安心して、持続して勤めることができ、やりがいのある職場作りに努力している。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 職員ひとりひとりのケアの力量と性格を把握し、働きながら、指導を受け、力量を向上出来る様にユニットのローテーションを組んでいる。新人にはマンツーマンの指導者を付け仕事の流れを理解させている。所内での勉強会を奨励し、外部研修の積極的参加を促している。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 研修会や勉強会等で同業者と情報交換出来る場に積極的に参加し、サービス向上につながる様に勤めている。また小規模多機能・通所リハ、居宅介護支援事業所等と交流し、ケアの方法、レクの手法、空室情報など交換し、サービスと質の向上に努めている。	
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 初期段階でご家族より、利用者の今までの歩み、不安、要望等をよく聞き取り、職員は、ご本人の趣味嗜好や関心あるお話をするなど、多く関わりを持つようにしている。それにより、不安の軽減、安心感をもっていただくと同時に利用者が当ホームに入居して、どのような気持ちでいるのか理解し、思いやるように努めている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 入所に至るまでのご家族の思いは様々です。ご本人が納得しないまま、入所させた罪悪感、介護からの開放感など、色々な感情をもたれているご家族を受け止め、今までの歩みを理解し、ご家族の気持ちに寄り添います。当ホームに入居させてよかったと安心していただけるように、ご家族との関係作りに努めています。	
17		○初期対応の見極めと支援サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 本人・家族が必要としている支援を見極め、個々にあったサービスを提供してゆきたい。特に医療法人であることで、医学的管理も含め、当ホームを選ばれ、入居される方が多い。医学的安定が精神的安定につながるので、希望・同意される入居者には入居時、連携病院に現在の状況、病歴、服薬状況等を報告し、入居中の医療連携支援を行っている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 本人ができること・できないことを職員全体が周知、理解し、日々の生活でできることをしていただき、できたことに職員は感動し、感謝の気持ちを伝えている。やる気がなかった方が、できるようになった時は、共に喜び、勇気をもらい、支え合いの関係を維持する様に努めている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 家族に2ヶ月毎のつどい便りを送付して、近況をお伝えしている。面会に来られた時は、ご本人ご家族と一緒に話して、ご家族の事情や要望等を職員全体が周知するようにしている。ご本人ご家族の今までの入居時に歩みを理解し、話し合いながら支援を進めてゆきたい。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 馴染みの面会者が来られたら、職員も利用者と一緒に歓迎し、ゆっくりくつろいでもらっている。ある職員を従姉妹（県外在住）と思い込んで、毎日話しかけてくるが、職員は従姉妹になりきって、対応している。ある利用者は、今は息子の代になっている馴染みの会社に行きたくて落ち着きがなくなる。ドライブがてら会社に連れて行き、息子と会ったら安心してホームに帰っている。 (外部評価) 友人や知人の訪問があり、快く対応している。利用者の希望に応じて、以前住んでいた家を見に行ったり、勤めていた会社を見に行ったりしている。家族から「お墓参りに行きたい」などと申し出があり、家族の協力を得ながら職員が対応している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 共有スペースで食事をし、お茶を飲み、テレビを見たり、お楽しみ会をしている。利用者は朝起きたら、ホールで過ごすのを楽しみにしていて、進んで居室から出て来ている。時々テーブルの席替えをして、利用者同士が楽しく交流できる様に配慮している。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 26年4月に開設して、退所して自宅に帰るとか、転所する方はまだいませんが、必要に応じて相談支援してゆきたい。最後まで看取って、終了した事例では、安らかに逝ったことでご家族から満足と感謝の言葉をいただきました。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 一人の職員が知り得たり、感じた利用者の思いを職員全体が共有し、その思いに寄り添って対応している。例えば、職員に手を引いてとか、連れて行くと素直に言う利用者と、異常に怒りっぽく、喧嘩ごしになったり、優しくされると「わざとらしい」と立腹する利用者がある。後者は職員に甘えたいけど言えない思いがあることを全員が共有し、悪態をつかれても、あくまでも優しく寄り添っていたら、徐々に職員に甘えたり、手をつなぐ行動に出る様になった。 (外部評価) 甘え上手な利用者や怒りっぽくなる利用者など様々であるが、管理者は職員に「なぜその行動を取るのか」、利用者の気持ちを考えるよう指導している。優しい態度で接し続けることで利用者と打ち解けることができるため、職員は利用者の思いをしっかりと受け止め理解するよう心がけている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 入居時に生活歴をお伺いし、今までの生活状況をご家族、親戚、また仲良しのご近所さんが来られた時にお聞きする等、情報把握に努め、安心して暮らせる生活環境作りに役立っている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) お一人おひとりの生活リズムを理解して対応する様に努めている。朝ゆっくり寝ている習慣の利用者には、無理に起こして、全員で朝食をとらなくても、身についたリズムで生活していただいている。料理の好きな利用者には食材切りや、味見をお願いしたり、畑仕事の好きな人には、畝作りを一緒にして役立つ喜びを感じていただいている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) 毎月のミーティングに事例検討を行い、気づきの伝達、状況の共有を行っている。また毎朝のショートミーティングで、必要に応じ事例を挙げご本人、ご家族の意向を職員全体が把握し、介護計画に反映する様にしている。少なくとも3ヶ月に1度は個別のモニタリングを行っている。 (外部評価) 職員1人が2名の利用者を担当し、担当職員を中心に意見を出し合い、介護計画を作成している。介護計画は色々な意見を取り入れて試み、利用者一人ひとりに合った介助方法などを見つけ、必要に応じ介護計画を見直ししている。管理者が介護計画の更新や見直しなど、家族への連絡をしている。また、3か月に1回モニタリングを実施している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 生活記録には日常生活の様子が分かる様に、利用者の話し言葉を入れ具体的記録をしている。個人記録表は1日のバイタル、食事、清潔、排せつ、服薬等すべてが把握できるようにしている。全員が出勤時必ず読むことになっている申し送りノートには、介護及び業務上の気づき、提案、決定事項等、伝達すべき情報を記録し、職員が周知し実践に反映している。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) 「今」「この時」に寄り添うとの理念のもと、生活全般のニーズに応じる様にしている。連携病院受診・検査に同行、自宅や馴染みの場所に行きたい希望に応じたり、福祉用具の購入の相談、地域的美容院による訪問カットや職員が爪マニキュアを施して、おしゃれ心を刺激したりしている。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) 地域ボランティア活動を受け入れ、地域の人たちと交流している。6月に地域の人が協力して植えた芋苗に利用者が水やりなどして育て、立派なさつまいもが初収穫できた。利用者から、自分たちで育てた芋を、運営推進会議の地区住民代表者に少しずつ、おすそ分けすることができ、グループホームの醍醐味を感じることができた。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	(自己評価) 入居時に医療に対するご意向を伺って要望に添って対応してい る。利用者と家族の同意のもと、医療連携病院に毎朝利用者の 具体的な体調をFAXにて報告。主治医が利用者の体調に応じ て、ほぼ毎日往診している。歯科は訪問診療も利用している。 他科受診の必要があるときは家族が付き添っている。 (外部評価) 利用開始前からのかかりつけ医を継続して受診する場合は、家 族に同行をお願いしている。母体病院の医師の往診が毎日あ り、状態によっては1日に何度も往診することも可能で、利用 者の状態は常に連絡し把握しており、母体病院をかかりつけ医 としている利用者が多い。急変時にも医師や看護師と迅速な協 力体制が取れており、利用者や家族は安心感がある。また、専 門医の薬等も把握し、重複しないようにチェックしている。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	(自己評価) 日常生活で、利用者の細やかな異常に介護者が気づいた時は、 看護職員または管理者（看護師）に報告し、主治医や家族と相 談しながら対応している。介護と医療の連携体制が構築されて おり、連携病院から主治医の指示のもと、看護師が処置の指導 やチェックにも来ている。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療でき るように、また、できるだけ早期に退院で きるように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) 入院にした際は、管理者が入院時情報提供書を病院に提出して いる。入院中は医療関係者、ご家族と相談・連絡を取り合い、 退院時は医療機関よりサマリーをいただき、退院後の介護の指 針にしている。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合い を行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 入居時に本人と家族に重度化した場合における対応、医療連携 体制を実施していること、本人、家族の意向に添うことを説明 し、同意を得ている。当事業所は医師の説明を受けた本人、家 族からの希望に添って看取り介護を行っている。職員全体に所 内で看取りに関する、研修を行い、看護師による終末期ケアの 指導を行っている。 (外部評価) 「重度化した場合における対応および看取りに関する指針」を 作成し、入居時に対応できる内容を利用者や家族に説明し、意 向を確認している。看護師である管理者が看取りや重度化など の研修や指導をしている。夜間など職員はとまどいや不安が大 きいが、母体病院の医師や看護師の協力のもと、経験を積むこ とで職員の不安の軽減に努めている。延命治療はしない方針で あるが、家族の要望などあれば意向どおりに入院等の対応をす ることができる。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 利用者の急変や事故発生時に備え、定期的ミーティングで学習し、不安や疑問など発表し意見交換をしている。また当事業所の「緊急時対応手順」を作成し、スタッフルームに掲示して、職員に周知徹底している。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 年2回防災訓練を実施している。防災チェックリストを作成し職員が日頃から防災意識を持ち、いざと言うとき対処できるようにチェックリストに基づき体験し、備蓄品を確認し、気づきや意見を出し合っている。運営推進会議において、地域との協力を話し合い、地域の人たちの避難場所としての受け入れの用意もある。 (外部評価) 非常災害対応マニュアルを作成し、同じ建物に併設されている小規模多機能型居宅介護と合同で年2回防災訓練を実施している。防災チェックリストを作成し、普段から職員が対応できるよう避難経路や防災設備等の確認をしている。また、地域の避難場所となる可能性もあり、備蓄品を整えるなど受け入れの用意をしている。	事業所が建物の2階と3階部分にあるため、災害発生時には職員だけで利用者を避難させることは困難である。地域住民に災害時の協力依頼を行い、防災訓練にも参加してもらうよう呼びかけるなど、今後の取組みを期待したい。また、夜間の少人数での職員の態勢を想定した避難訓練も実施し、緊急事態の対応について検討することを期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 居室はすべて個室であり、入浴も個人浴でプライバシーを損ねない様に対応している。また明るい笑顔と利用者にあったトーンの声かけを行い、お一人おひとりを尊重して接する様に心がけている。 (外部評価) 一人ひとりの生活歴が違うため、詳しい情報を把握し個別に対応できるよう努めている。利用者を尊重し、排泄や入浴の介助時には、利用者の羞恥心やプライバシーに配慮した支援をしている。声のトーンにも気を配り、トイレの声かけなど他の利用者に聞こえないよう配慮している。中途失明した視力障害のある利用者にも、できる限り自分でできるよう声かけをしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 食べものや飲み物には選択の幅を持たせ、おやつは数種類から好みの者をとってもらい、飲み物をご希望を聞いて提供している。レクレーション、作業、外出など強制しないで、自己決定できるように働きかけている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) タイムスケジュールを重視しないで、ご利用者に添って起床、朝食、入浴時間等を合わせ、日頃から業務中心でなく、利用者中心の生活を支援する様に心がけている。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 職員が利用者の服装やおしゃれに関心を持ち、服装が変わったり、散髪などしてヘアスタイルが変わったりすると、その都度感想を述べることで、利用者の身だしなみの意識が高まり、気軽に職員に服装やおしゃれの相談をしている。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) オープンキッチンとなっているため、利用者の目の前で調理している。利用者は気軽に野菜切り、皮むきなど手伝ってくれたり、味見をしてもらったりしている。またテーブルに鉄板を出して、焼きそば、お好み焼き、バーベキューなど利用者が参加して調理する食事が好評です。おしゃれな箸置き、食器、コーヒーカップなどで優雅に食事を楽しむ雰囲気作りも心がけている。	
			(外部評価) 一人ひとりの個別カードに、職員が利用者の好きなもの嫌いなものを記録して確認し、栄養士が献立を立て職員が調理している。利用者と一緒に野菜の皮を剥いたり、味見をしてもらったりするなど、調理の段階から参加してもらえるようにしている。テーブルの上に鉄板をおいて、たこ焼きやバーベキューなどを一緒に作りながら楽しむこともある。食事介助が必要な利用者には目の前で一口大に切るなど、目で食事を楽しめるようにしている。また、地元の農家で作ったお米を使用し、新米ができた時には農家の方の訪問があり、お米の作り方などを聞き交流している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 主に栄養士が栄養バランスを考えた献立をたて、職員が食事の摂取量は毎食チェック、記録している。水分摂取は三回の食事と10:00、15:00、入浴後、運動後、外出から帰った時、夜間は居室にお茶を用意しておくなど、一人ひとりの摂取状況に配慮している。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 食事前には職員の指導の下で口腔体操を行って、唾液の分泌を促している。毎食後、個別に口腔清潔に誘導し、必要に応じケアを行っている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	<p>(自己評価) 生活記録に排泄チェック表を記載し排せつ状態を把握している。原則としてトイレで排泄する様に誘導している。車いすの利用者は本人の希望により夜間はポータブルトイレを使用することもある。声かけしてトイレ誘導しているが、尿意から排せつまで間に合わないこともあり、パット、リハパンを使うことがある。現在オムツ使用の利用者はいない。</p> <p>(外部評価) 車いす対応の広いトイレが各階に2か所設置されている。手すりや前かがみになりやすいレストテーブルも設置されており、座位姿勢での自然な排泄を心がけている。一人ひとりの状態や排泄パターンに合わせて声かけし、トイレへ誘導をしている。日中はトイレでの排泄支援を心がけており、夜間だけポータブルトイレやパット、リハビリパンツを使用するなど、利用者に合わせて対応をしている。</p>	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	<p>(自己評価) 朝食には毎回牛乳またはヨーグルトを飲んでいただき、午前中に体操をして体を動かすことにより自然排便を促している。個々の排便状態を観察、記録し、便秘が続く場合は連携の主治医と相談し、緩下剤服用することもあるが、職員が状態観察しながら服用支援をしている。</p>	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	<p>(自己評価) 日曜日以外に入浴の準備をしている。基本的に週2回のスケジュールを組んでいるが、ご利用者の気分により、曜日を変更したり、回数を増やすなど柔軟に対応している。ご利用者と一緒に収穫したゆずでゆず湯を楽しんでいただいたりしている。</p> <p>(外部評価) 1日3名ずつくらい、週2回入浴することができる。利用者の希望があれば、毎日入浴できるよう対応している。気分や体調で入浴できなかった場合は、前回いつ入浴したかをチェック表で確認し、利用者一人ひとりに合わせた声かけを実施している。麻痺等を考慮し、左右どちらからでも一部介助で入浴できる可動式浴槽と可動式手すりが設置されている。また、建物の1階に特殊浴槽の設置があり、利用者の状態に合わせて利用することができる。</p>	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	<p>(自己評価) 朝ゆっくり寝るのが習慣の方には無理に起こさないで、その方のペースに合わせている。昼寝の習慣の方、体調不良時など居室でゆっくり休める様に支援している。就寝時間も利用者の生活習慣にできるだけ合わせる様に心がけている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 薬は看護師が管理し、1日分の投薬箱に朝、昼、夕、就寝前に仕分けし、職員が服薬支援を行っている。薬の目的、副作用、用法、変更等は申し送り簿にて確認し、服薬状況を記録している。状態の経過や変化は毎朝、連携主治医にFAXで報告して、医療的対応を受けている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 利用者の生活歴により違っている利用者の興味を職員が理解し、花壇作り、畑作り、調理、踊り、歌など個々の利用者の関心事や趣味を楽しめる様に支援している。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 全員で季節のお花見や紅葉狩りに出かけている。日常では少人数で散歩、食材の買い物に同行、船員だった人と港湾や造船所にドライブしたり、帰宅願望の利用者と育った家を見に行くなど個々に対応している。またご家族と一緒に外出した時は楽しくて、満足気な表情で帰って来られる。 (外部評価) 家族に協力してもらい、希望があれば実家の様子や以前勤めていた会社などを見に出かけている利用者もいる。普段は3名程度の少人数の利用者で散歩や買い物に出かけたり、ボランティアの地域住民と一緒に野菜作りを楽しんだり、庭の草木を見に出るなど、機会を見つけ外出できるよう支援している。季節に応じて、藤の花を見に行ったり、紅葉狩りやゆずの収穫などに出かけられるよう支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 入所時面談で、物盗られ妄想、財布がないと騒ぐ、預金通帳に異常に執着があり銀行を巻き込む等々のご家族からのお話もあり、個人的にはお金を所持していません。お買い物ツアーでは、施設が立て替え、ご本人が支払いをして、買い物気分を実感していただいている。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 親族や知人と電話で話したいときは、施設の携帯電話で居室内で通話する様に支援している。また希望により手紙が出せるような支援もしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) 3階建ての施設の中を利用者はエレベーターを使って、自由に移動できる。共用の空間は空調、温度管理、採光に考慮し、オープンキッチンでは調理の音や匂いを感じ参加もできる。居間の道路側は透明ガラス張り、中からは交差点、街路樹、人や車の動きを見ることができ、外からは地域の人たちに中の七夕飾りやクリスマスツリーを楽しんでいただいている。</p> <p>(外部評価) リビングは日当たりが良く、窓から隣接する大通りなどを見渡すことができる。ソファは利用者の生活状況に応じて配置を決めており、日中リビングで過ごすことが多い利用者が居心地良い場所で過ごせるよう工夫している。メダカを飼っており、えさやりをする利用者もいる。食事前には嚙下体操をしたり、職員の提案で始めた「ようかい体操」が利用者に好評である。</p>	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	<p>(自己評価) ソファを自由に移動して、寝転がることもできる。気の合った利用者同士が食堂以外でも、テーブルを囲めるように居間にも置いている。共用空間の全ての家具は状況に応じて、気軽に移動できる様にしている。</p>	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) 居室は日照、採光、換気等及び防災に配慮している。ベッド、タンス、テーブル、椅子、ナースコール、洗面台を備え付けている。ご本人の好みの家具や置物を持ち込み自由となっている。但し、地震等防災のため、背の高い家具の持ち込みは遠慮してもらっている。</p> <p>(外部評価) 全ての居室は南側にあり、日当たりが良い。居室には思い思いの家具や写真、荷物を持ち込み、居心地の良い空間づくりをしている。防災面を考慮し、地震時などの転落防止のため、背の高い家具だけは居室への持ち込みをお断りしている。洗面台を使用するときには車いすでも対応できるようになっており、安全にも配慮している。</p>	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	<p>(自己評価) 事業所全体を日照、通風に配慮し、バリアフリー構造にし、利用者の安全に考慮している。可能な限り自立して移動できるように廊下、トイレ、浴室等に手すりを設置している。手洗い設備、手指消毒液等感染予防に必要な設備を設けている。</p>	

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3890200334
法人名	医療法人やすらぎ会
事業所名	グループホームつどい
所在地	愛媛県今治市南大門町2丁目2番地2
自己評価作成日	平成 26 年 12 月 20 日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成 27 年 2 月 20 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>・おひとりおひとりの今までの歩みをたいせつにし、個々のご利用者に合った支援を心がけています。</p> <p>・家庭的な雰囲気の中で自分らしく、より豊かに、ゆったりと暮らしていただけるように、優しく寄り添った介護に努めています。</p> <p>・運営母体の病院と連携して入居者の万全な健康管理に努め、重度化した場合はご利用者・ご家族のご意向に従い、看取り介護を行っています。</p> <p>・地域の方々とは、地方祭にはお神輿や子供たち、地域の人たちが来てくれたり、ボランティアによる民舞鑑賞会、クリスマスキャロル等、さつまいも苗植えに協力していただいたり、楽しく交流しています。</p>

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>市街地にある事業所は、市役所や消防署、JR今治駅、幼稚園、小学校など利便性に優れた立地である。平成26年4月に開設した事業所には小規模多機能型居宅介護を併設しており、2階と3階部分を事業所として使用している。母体病院は事業所から近く、毎日の往診や急変時の迅速な対応など利用者や家族には安心感があり、認知機能が低下していても受け入れている。できることはなるべく利用者本人にしてもらうよう声かけを行い、自立して日常生活を送るように職員同士で話し合っている。事業所では看取りにも取り組んでおり、「とろとろに優しく」をスローガンに掲げて利用者に優しく接しながら、日常生活で苦痛を与えずやすらかに最後まで看取れる対応をしている。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き生きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

I.理念に基づく運営

II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援

III.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

IV.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。
- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。
- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取り組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホームつどい

(ユニット名) 3 階

記入者(管理者)
氏名 村上 東洋子

評価完了日 26 年 12 月 30 日

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I. 理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	<p>(自己評価) 『一人ひとりの今までの歩みを大切にし、一人ひとりの「今」「この時」に寄り添います。』の理念を玄関、居間に掲示。スタッフ全員が朝礼で唱和し、理念を共有している。利用者一人ひとりが地域にとけ込み、その人らしく生活してゆけるよう支援している。</p> <p>(外部評価) 開設準備室を立ちあげた段階で、他の事業所の理念を参考にしながら、「自分たちはどのようなグループホームにしたいか」を職員間で話し合い、理念を作成している。平成26年4月開設後は、玄関やリビング、スタッフルームに理念を掲げ、毎朝唱和している。</p>	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	<p>(自己評価) 地方祭ではお神輿や子供たち、地域の人たちが来て下さったり、弘法大師降誕会に利用者とスタッフが列席して幼稚園児と交流。近隣の方がさつまいも苗を持参、利用者と一緒に畝を作り芋植えをしたり、メダカを持ってきてくれ、飼い方を教えてくれたり、その後の様子を見に来てくれたりしている。近隣の農家のお米を食し、始めて新米を食べる時は、農家の方も来て、米作りの話を聞きながら、一緒に食事をし、お米を作ってくれた人の顔が見えるなど、地域の住民と楽しく交流している。</p> <p>(外部評価) 小学校の運動会などの地域行事に参加したり、近隣にある幼稚園等と交流をしたりするなど、地域との繋がりを広めている。地域の祭りでは子供神輿が立ち寄り、利用者に喜ばれている。様々なボランティアの訪問があり、敷地内に家庭菜園を作ってもらい野菜作りをしたり、庭木の剪定をしたり、メダカの飼い方などを教えてもらっている。民舞のボランティアや学生の実習も受け入れ、利用者で交流している。また、災害発生時には一時避難所として地域住民を受け入れできる体制を整えている。</p>	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	<p>(自己評価) 「認知症在宅介護者のつどい」の施設見学・研修の受け入れを行い、認知症に対する知識や理解を深め、介護方法の習得や、介護者・入居者・スタッフとの交流や、質疑応答、意見交換など行っている。</p>	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	<p>(自己評価) 運営推進会議は2ヶ月に1回、利用者・家族・民生委員・地区住民の代表者・市担当者の参加を得て開催している。利用状況・活動状況の報告を行い、意見交換では毎回、率直な意見が出席者からあり、熱く盛り上がり、防災問題、今後の活動、認知症の方に対する対応など、貴重なご意見をいただき、スタッフ全員に会議の報告と周知を徹底し、サービス向上に活かしている。</p> <p>(外部評価) 運営推進会議は利用者や家族、民生委員、地区の住民、市担当者、法人理事などの参加を得て開催している。家族も会議には積極的に参加してくれている。会議では事業所の活動報告を行い、意見や情報などを気軽に話してもらえよう茶話会的に実施している。参加者から「防災について事業計画に入れた方がよい」など意見が出され運営に反映している。</p>	<p>会議には決まった職員が毎回参加しており、他の職員には翌朝のミーティングで報告をしているが、可能な範囲で職員が順番に参加することを望みたい。多くの職員が地域住民や家族等との意見交換等を直接していくことで、理解や交流を一層深められるなど、さらなるサービス向上に繋がることを期待したい。</p>
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	<p>(自己評価) 市担当者の運営推進会参加を得、事業所の方針や現場の実情を伝えたり、市職員から課題解決のための情報を示唆していただいている。介護保険関係で理解困難な場合は市の窓口を訪問し、話し合いをするなど、普段から連絡・相談がしやすい関係を築いている。</p> <p>(外部評価) 事業所から市役所は近く、管理者は開設の準備段階から市担当窓口に出向き相談しており、介護保険制度の内容の確認や質問など気軽に相談できる関係づくりをしている。市担当者は運営推進会議にも参加し、情報やアドバイスをもらっている。</p>	<p>事業所から市役所は近く、管理者は開設の準備段階から市担当窓口に出向き相談しており、介護保険制度の内容の確認や質問など気軽に相談できる関係づくりをしている。市担当者は運営推進会議にも参加し、情報やアドバイスをもらっている。</p>
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	<p>(自己評価) 職員一同が「身体拘束は行わない」と共通認識を持ち、定期的ユニット会議で学習し、課題があれば話し合いをして、身体拘束をしないケアに努めている。三階建ての建物内は利用者がエレベーターを使って自由に移動している。施設が市街の中心地に有り交通が頻繁な交差点の角地のため、一步屋外に出ると危険がある。徘徊の利用者も入居しているので安全を優先し、やむを得ず施錠しているが、利用者が希望すれば必ず職員同行で外出している。</p> <p>(外部評価) 身体拘束に関することは定期的にユニット会議で話し合い、身体拘束をしないケアに努めている。車いすの利用者が立ち上がろうとすることもありますが、職員が見守りで対応している。事業所のある建物は大通りに面し交通量も多く危険なため、家族にリスクを説明し同意を得て、階段室と玄関は施錠している。外出しようとする利用者には職員が同行したり、希望者には敷地内の畑に出て野菜作りの世話をしたりできるよう支援している。</p>	<p>職員一同が「身体拘束は行わない」と共通認識を持ち、定期的ユニット会議で学習し、課題があれば話し合いをして、身体拘束をしないケアに努めている。三階建ての建物内は利用者がエレベーターを使って自由に移動している。施設が市街の中心地に有り交通が頻繁な交差点の角地のため、一步屋外に出ると危険がある。徘徊の利用者も入居しているので安全を優先し、やむを得ず施錠しているが、利用者が希望すれば必ず職員同行で外出している。</p>

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 定期的ユニット会議で「虐待防止」について学習している。特に介護現場では身体的虐待だけでなく、叱る・無視・高圧的態度など心理的虐待の防止に重点を置いて、職員の自覚を促し、「とろとろに優しく」を事業所のスローガンとしている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 管理者・リーダーは介護支援専門員の研修等に参加し、権利擁護について学んでいる。現在のところ、制度を利用する対象者はいないが、今後、職員が研修等に参加の機会を設け、権利擁護や成年後見制度を学び、理解し、必要な時は利用者、ご家族を支援できるようにする。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 利用者やご家族に対し、契約内容の詳細を説明し、不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い、理解・納得を得られた上で契約を行っている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 日々の生活の中で、利用者からの要望が、毎朝のミーティングで管理者及び職員に報告され直ちに話し合いをし、ケアに反映している。ご家族が来所時はホールと一緒に座り、一緒にお茶を飲み、普段の生活を見ていただき、ご意見ご要望等を伺い、ご家族のお気持ちを職員に周知させ、運営に活かしている。遠方のご家族には、電話連絡にて利用者の様子を伝え、つどい便りを全家族に送付している。 (外部評価) 家族から個人的な利用者の好みや希望は出されるが、運営に関しての意見や要望は今のところはない。利用者から日々の生活の中で希望が出されることがあり、職員間で話し合い対応している。遠方に住んでいる家族には電話で連絡を取り、2か月に1回「つどいだより」を送付している。意見箱を設置しているが、今までに意見は出されていない。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 毎月のユニット会議で、職員ひとりひとりが意見を述べる機会がある。管理者と職員は普段からケアの方向性がぶれないように話し合い、職員が代表者や管理者に意見や要望を伝えやすい環境とし、職員の声を運営に活かしてゆく様に努めている。 (外部評価) 開設当初は、2階と3階合同で会議を実施していたが、話し合うことが多く時間もかかるため、現在は毎月別々のユニット会議で話し合いをしている。ユニット毎の会議ではあるが、会議記録は職員全員に回覧し共有している。会議では職員から勤務体制などの意見が出され、管理者は全ての要望に対して対応できないこともあるが、きちんと説明し反映できるよう努力している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 個々の勤務状態を把握し、面談を行い、話しやすい状況を作っている。実績に応じて、研修参加の機会を設け、キャリアアップ、意欲の向上に努めている。希望休、生活状況に合わせた勤務シフトを取り入れ、安心して、持続して勤めることができ、やりがいのある職場作りに努力している。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 職員ひとりひとりのケアの力量と性格を把握し、働きながら、指導を受け、力量を向上出来る様にユニットのローテーションを組んでいる。新人にはマンツーマンの指導者を付け仕事の流れを理解させている。所内での勉強会を奨励し、外部研修の積極的参加を促している。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 研修会や勉強会等で同業者と情報交換出来る場に積極的に参加し、サービス向上につながる様に勤めている。また小規模多機能・通所リハ、居宅介護支援事業所等と交流し、ケアの方法、レクの手法、空室情報など交換し、サービスと質の向上に努めている。	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 初期段階でご家族より、利用者の今までの歩み、不安、要望等をよく聞き取り、職員は、ご本人の趣味嗜好や関心あるお話をするなど、多く関わりを持つようにしている。それにより、不安の軽減、安心感をもっていただくと同時に利用者が当ホームに入居して、どのような気持ちでいるのか理解し、思いやるように努めている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 入所に至るまでのご家族の思いは様々です。ご本人が納得しないまま、入所させた罪悪感、介護からの開放感など、色々な感情をもたれているご家族を受け止め、今までの歩みを理解し、ご家族の気持ちに寄り添います。当ホームに入居させてよかったと安心していただけるように、ご家族との関係作りに努めています。	
17		○初期対応の見極めと支援サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 本人・家族が必要としている支援を見極め、個々にあったサービスを提供してゆきたい。特に医療法人であることで、医学的管理も含め、当ホームを選ばれ、入居される方が多い。医学的安定が精神的安定につながるので、希望・同意される入居者には入居時、連携病院に現在の状況、病歴、服薬状況等を報告し、入居中の医療連携支援を行っている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 本人ができること・できないことを職員全体が周知、理解し、日々の生活でできることをしていただき、できたことに職員は感動し、感謝の気持ちを伝えている。やる気がなかった方が、できるようになった時は、共に喜び、勇気をもらい、支え合いの関係を維持する様に努めている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 家族に2ヶ月毎のつどい便りを送付して、近況をお伝えしている。面会に来られた時は、ご本人ご家族と一緒に話して、ご家族の事情や要望等を職員全体が周知するようにしている。ご本人ご家族の今までの入居時に歩みを理解し、話し合いながら支援を進めてゆきたい。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 馴染みの面会者が来られたら、職員も利用者と一緒に歓迎し、ゆっくりくつろいでもらっている。ある職員を従姉妹（県外在住）と思い込んで、毎日話しかけてくるが、職員は従姉妹になりきって、対応している。ある利用者は、今は息子の代になっている馴染みの会社に行きたくて落ち着きがなくなる。ドライブがてら会社に連れて行き、息子と会ったら安心してホームに帰っている。 (外部評価) 友人や知人の訪問があり、快く対応している。利用者の希望に応じて、以前住んでいた家を見に行ったり、勤めていた会社を見に行ったりしている。家族から「お墓参りに行きたい」などと申し出があり、家族の協力を得ながら職員が対応している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 共有スペースで食事をし、お茶を飲み、テレビを見たり、お楽しみ会をしている。利用者は朝起きたら、ホールで過ごすのを楽しみにしていて、進んで居室から出て来ている。時々テーブルの席替えをして、利用者同士が楽しく交流できる様に配慮している。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 26年4月に開設して、退所して自宅に帰るとか、転所する方はまだいませんが、必要に応じて相談支援してゆきたい。最後まで看取って、終了した事例では、安らかに逝ったことでご家族から満足と感謝の言葉をいただきました。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 一人の職員が知り得たり、感じた利用者の思いを職員全体が共有し、その思いに寄り添って対応している。例えば、入所時は昼夜を問わず、大きな声を発し、1日中ウロウロと歩き回ったり、自分の思いが通じない時などに職員や時には他の利用者や、叩いたり、つねったり、噛んだりする行為が見られたが、認知症による状態であることを職員全体が共有し、その都度優しく対応し、ご本人に寄り添うことにより、最近、そのような行為も見られなくなってきた。 (外部評価) 甘え上手な利用者や怒りっぽくなる利用者など様々であるが、管理者は職員に「なぜその行動を取るのか」、利用者の気持ちを考えるよう指導している。優しい態度で接し続けることで利用者と打ち解けることができるため、職員は利用者の思いをしっかりと受け止め理解するよう心がけている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 入居時に生活歴をお伺いし、今までの生活状況をご家族、親戚、また仲良しのご近所さんが来られた時にお聞きする等、情報把握に努め、安心して暮らせる生活環境作りに役立っている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) お一人おひとりの生活リズムを理解して対応する様に努めている。朝ゆっくり寝ている習慣の利用者には、無理に起こして、全員で朝食をとらなくても、身についたリズムで生活していただいている。ホットプレート料理の際は具材を入れて、混ぜてくれたり、味見をお願いしたり、食器やお盆を拭いてくれたりと、個々の能力に応じて役立つことの喜びを感じていただいている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) 毎月のミーティングに事例検討を行い、気づきの伝達、状況の共有を行っている。また毎朝のショートミーティングで、必要に応じ事例を挙げご本人、ご家族の意向を職員全体が把握し、介護計画に反映する様にしている。少なくとも3ヶ月に1度は個別のモニタリングを行っている。 (外部評価) 職員1人が2名の利用者を担当し、担当職員を中心に意見を出し合い、介護計画を作成している。介護計画は色々な意見を取り入れて試み、利用者一人ひとりに合った介助方法などを見つけ、必要に応じ介護計画を見直ししている。管理者が介護計画の更新や見直しなど、家族への連絡をしている。また、3か月に1回モニタリングを実施している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 生活記録には日常生活の様子が分かる様に、利用者の話し言葉を入れ具体的記録をしている。個人記録表は1日のバイタル、食事、清潔、排せつ、服薬等すべてが把握できるようにしている。全員が出勤時必ず読むことになっている申し送りノートには、介護及び業務上の気づき、提案、決定事項等、伝達すべき情報を記録し、職員が周知し実践に反映している。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) 「今」「この時」に寄り添うとの理念のもと、生活全般のニーズに応じる様にしている。連携病院受診・検査に同行、自宅や馴染みの場所に行きたい希望に応じたり、福祉用具の購入の相談、地域的美容院による訪問カットや職員が爪マニキュアを施して、おしゃれ心を刺激したりしている。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) 地域ボランティア活動を受け入れ、地域の人たちと交流している。6月に地域の人が協力して植えた芋苗に利用者が水やりなどして育て、立派なさつまいもが初収穫できた。利用者から、自分たちで育てた芋を、運営推進会議の地区住民代表者に少しずつ、おすそ分けすることができ、グループホームの醍醐味を感じることができた。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	(自己評価) 入居時に医療に対するご意向を伺って要望に添って対応してい る。利用者と家族の同意のもと、医療連携病院に毎朝利用者の 具体的な体調をFAXにて報告。主治医が利用者の体調に応じ て、ほぼ毎日往診している。歯科は訪問診療も利用している。 他科受診の必要があるときは家族が付き添っている。 (外部評価) 利用開始前からのかかりつけ医を継続して受診する場合は、家 族に同行をお願いしている。母体病院の医師の往診が毎日あ り、状態によっては1日に何度も往診することも可能で、利用 者の状態は常に連絡し把握しており、母体病院をかかりつけ医 としている利用者が多い。急変時にも医師や看護師と迅速な協 力体制が取れており、利用者や家族は安心感がある。また、専 門医の薬等も把握し、重複しないようにチェックしている。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	(自己評価) 日常生活で、利用者の細やかな異常に介護者が気づいた時は、 看護職員または管理者（看護師）に報告し、主治医や家族と相 談しながら対応している。介護と医療の連携体制が構築されて おり、連携病院から主治医の指示のもと、看護師が処置の指導 やチェックにも来ている。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療でき るように、また、できるだけ早期に退院で きるように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) 入院にした際は、管理者が入院時情報提供書を病院に提出して いる。入院中は医療関係者、ご家族と相談・連絡を取り合い、 退院時は医療機関よりサマリーをいただき、退院後の介護の指 針にしている。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合い を行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 入居時に本人と家族に重度化した場合における対応、医療連携 体制を実施していること、本人、家族の意向に添うことを説明 し、同意を得ている。当事業所は医師の説明を受けた本人、家 族からの希望に添って看取り介護を行っている。職員全体に所 内で看取りに関する、研修を行い、看護師による終末期ケアの 指導を行っている。 (外部評価) 「重度化した場合における対応および看取りに関する指針」を 作成し、入居時に対応できる内容を利用者や家族に説明し、意 向を確認している。看護師である管理者が看取りや重度化など の研修や指導をしている。夜間など職員はとまどいや不安が大 きいが、母体病院の医師や看護師の協力のもと、経験を積むこ とで職員の不安の軽減に努めている。延命治療はしない方針で あるが、家族の要望などあれば意向どおりに入院等の対応をす ることができる。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 利用者の急変や事故発生時に備え、定期的ミーティングで学習し、不安や疑問など発表し意見交換をしている。また当事業所の「緊急時対応手順」を作成し、スタッフルームに掲示して、職員に周知徹底している。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 年2回防災訓練を実施している。防災チェックリストを作成し職員が日頃から防災意識を持ち、いざと言うとき対処できる様にチェックリストに基づき体験し、備蓄品を確認し、気づきや意見を出し合っている。運営推進会議において、地域との協力を話し合い、地域の人たちの避難場所としての受け入れの用意もある。 (外部評価) 非常災害対応マニュアルを作成し、同じ建物に併設されている小規模多機能型居宅介護と合同で年2回防災訓練を実施している。防災チェックリストを作成し、普段から職員が対応できるよう避難経路や防災設備等の確認をしている。また、地域の避難場所となる可能性もあり、備蓄品を整えるなど受け入れの用意をしている。	事業所が建物の2階と3階部分にあるため、災害発生時には職員だけで利用者を避難させることは困難である。地域住民に災害時の協力依頼を行い、防災訓練にも参加してもらうよう呼びかけるなど、今後の取組みを期待したい。また、夜間の少人数での職員の態勢を想定した避難訓練も実施し、緊急事態の対応について検討することを期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 居室はすべて個室であり、入浴も個人浴でプライバシーを損ねない様に対応している。また明るい笑顔と利用者にあったトーンの声かけを行い、お一人おひとりを尊重して接する様に心がけている。 (外部評価) 一人ひとりの生活歴が違うため、詳しい情報を把握し個別に対応できるよう努めている。利用者を尊重し、排泄や入浴の介助時には、利用者の羞恥心やプライバシーに配慮した支援をしている。声のトーンにも気を配り、トイレの声かけなど他の利用者に聞こえないよう配慮している。中途失明した視力障害のある利用者にも、できる限り自分でできるよう声かけをしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 食べものや飲み物には選択の幅を持たせ、おやつは数種類から好みの者をとってもらい、飲み物をご希望を聞いて提供している。レクレーション、作業、外出など強制しないで、自己決定できるように働きかけている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) タイムスケジュールを重視しないで、ご利用者に添って起床、朝食、入浴時間等を合わせ、日頃から業務中心でなく、利用者中心の生活を支援する様に心がけている。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 職員が利用者の服装やおしゃれに関心を持ち、服装が変わったり、散髪などしてヘアスタイルが変わったりすると、その都度感想を述べることで、利用者の身だしなみの意識が高まり、気軽に職員に服装やおしゃれの相談をしている。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) オープンキッチンとなっているため、利用者の目の前で調理している。利用者は気軽に野菜切り、皮むきなど手伝ってくれたり、味見をしてもらったりしている。またテーブルに鉄板を出して、焼きそば、お好み焼き、バーベキューなど利用者が参加して調理する食事が好評です。おしゃれな箸置き、食器、コーヒーカップなどで優雅に食事を楽しむ雰囲気作りも心がけている。	
			(外部評価) 一人ひとりの個別カードに、職員が利用者の好きなもの嫌いなものを記録して確認し、栄養士が献立を立て職員が調理している。利用者と一緒に野菜の皮を剥いたり、味見をもらったりするなど、調理の段階から参加してもらえようとしている。テーブルの上に鉄板をおいて、たこ焼きやバーベキューなどを一緒に作りながら楽しむこともある。食事介助が必要な利用者には目の前で一口大に切るなど、目で食事を楽しめるようにしている。また、地元の農家で作ったお米を使用し、新米ができた時には農家の方の訪問があり、お米の作り方などを聞き交流している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 主に栄養士が栄養バランスを考えた献立をたて、職員が食事の摂取量は毎食チェック、記録している。水分摂取は三回の食事と10:00、15:00、入浴後、運動後、外出から帰った時、夜間は居室にお茶を用意しておくなど、一人ひとりの摂取状況に配慮している。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 食事前には職員の指導の下で口腔体操を行って、唾液の分泌を促している。毎食後、個別に口腔清潔に誘導し、必要に応じてケアを行っている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	<p>(自己評価) 生活記録に排泄チェック表を記載し排せつ状態を把握している。原則としてトイレで排泄する様に誘導している。車いすの利用者は本人の希望により夜間はポータブルトイレを使用することもある。声かけしてトイレ誘導しているが、尿意から排せつまで間に合わないこともあり、パット、リハパンを使うことがある。良眠の妨げとなる様な方、または、ご家族ご本人の要望で夜間のみオムツ使用の方が2名いる。</p> <p>(外部評価) 車いす対応の広いトイレが各階に2か所設置されている。手すりや前かがみになりやすいレストテーブルも設置されており、座位姿勢での自然な排泄を心がけている。一人ひとりの状態や排泄パターンに合わせて声かけし、トイレへ誘導をしている。日中はトイレでの排泄支援を心がけており、夜間だけポータブルトイレやパット、リハビリパンツを使用するなど、利用者に合わせて対応をしている。</p>	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	<p>(自己評価) 朝食には毎回牛乳またはヨーグルトを飲んでいただき、午前中に体操をして体を動かすことにより自然排便を促している。個々の排便状態を観察、記録し、便秘が続く場合は連携の主治医と相談し、緩下剤服用することもあるが、職員が状態観察しながら服用支援をしている。</p>	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	<p>(自己評価) 日曜日以外に入浴の準備をしている。基本的に週2回のスケジュールを組んでいるが、ご利用者の気分により、曜日を変更したり、回数を増やすなど柔軟に対応している。ご利用者と一緒に収穫したゆずでゆず湯や温泉のもとを利用して各地の温泉に入った気分を楽しんでいただいたりしている。</p> <p>(外部評価) 1日3名ずつくらい、週2回入浴することができる。利用者の希望があれば、毎日入浴できるよう対応している。気分や体調で入浴できなかった場合は、前回いつ入浴したかをチェック表で確認し、利用者一人ひとりに合わせた声かけを実施している。麻痺等を考慮し、左右どちらからでも一部介助で入浴できる可動式浴槽と可動式手すりが設置されている。また、建物の1階に特殊浴槽の設置があり、利用者の状態に合わせて利用することができる。</p>	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	<p>(自己評価) 朝ゆっくり寝るのが習慣の方には無理に起こさないで、その方のペースに合わせている。昼寝の習慣の方、体調不良時など居室でゆっくり休める様に支援している。就寝時間も利用者の生活習慣にできるだけ合わせる様に心がけている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 薬は看護師が管理し、1日分の投薬箱に朝、昼、夕、就寝前に仕分けし、職員が服薬支援を行っている。薬の目的、副作用、用法、変更等は申し送り簿にて確認し、服薬状況を記録している。状態の経過や変化は毎朝、連携主治医にFAXで報告して、医療的対応を受けている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 利用者の生活歴により違っている利用者の興味を職員が理解し、花壇作り、畑作り、調理、踊り、歌など個々の利用者の関心事や趣味を楽しめる様に支援している。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 全員で季節のお花見や紅葉狩りに出かけている。日常では少人数で散歩、食材の買い物に同行、船員だった人と港湾や造船所にドライブしたり、帰宅願望の利用者と育った家を見に行くなど個々に対応している。またご家族と一緒に外出した時は楽しくて、満足気な表情で帰って来られる。 (外部評価) 家族に協力してもらい、希望があれば実家の様子や以前勤めていた会社などを見に出かけている利用者もいる。普段は3名程度の少人数の利用者で散歩や買い物に出かけたり、ボランティアの地域住民と一緒に野菜作りを楽しんだり、庭の草木を見に出るなど、機会を見つけ外出できるよう支援している。季節に応じて、藤の花を見に行ったり、紅葉狩りやゆずの収穫などに出かけられるよう支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 入所時面談で、物盗られ妄想、財布がないと騒ぐ、預金通帳に異常に執着があり銀行を巻き込む等々のご家族からのお話もあり、個人的にはお金を所持していません。お買い物ツアーでは、施設が立て替え、ご本人が支払いをして、買い物気分を実感していただいている。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 親族や知人と電話で話したいときは、施設の携帯電話で居室内で通話する様に支援している。また希望により手紙が出せるような支援もしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) 3階建ての施設の中を利用者はエレベーターを使って、自由に移動できる。共用の空間は空調、温度管理、採光に考慮し、オープンキッチンでは調理の音や匂いを感じ参加もできる。居間の道路側は透明ガラス張り、中からは交差点、街路樹、人や車の動きを見ることができ、外からは地域の人たちに七夕飾りやクリスマスツリーを楽しんでいただいている。</p> <p>(外部評価) リビングは日当たりが良く、窓から隣接する大通りなどを見渡すことができる。ソファは利用者の生活状況に応じて配置を決めており、日中リビングで過ごすことが多い利用者が居心地良い場所で過ごせるよう工夫している。メダカを飼っており、えさやりをする利用者もいる。食事前には嚙下体操をしたり、職員の提案で始めた「ようかい体操」が利用者に好評である。</p>	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	<p>(自己評価) ソファを自由に移動して、寝転がることもできる。気の合った利用者同士が食堂以外でも、テーブルを囲めるように居間にも置いている。共用空間の全ての家具は状況に応じて、気軽に移動できる様にしている。</p>	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) 居室は日照、採光、換気等及び防災に配慮している。ベッド、タンス、テーブル、椅子、ナースコール、洗面台を備え付けている。ご本人の好みの家具や置物を持ち込み自由となっている。但し、地震等防災のため、背の高い家具の持ち込みは遠慮してもらっている。</p> <p>(外部評価) 全ての居室は南側にあり、日当たりが良い。居室には思い思いの家具や写真、荷物を持ち込み、居心地の良い空間づくりをしている。防災面を考慮し、地震時などの転落防止のため、背の高い家具だけは居室への持ち込みをお断りしている。洗面台を使用するときには車いすでも対応できるようになっており、安全にも配慮している。</p>	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	<p>(自己評価) 事業所全体を日照、通風に配慮し、バリアフリー構造にし、利用者の安全に考慮している。可能な限り自立して移動できるように廊下、トイレ、浴室等に手すりを設置している。手洗い設備、手指消毒液等感染予防に必要な設備を設けている。</p>	